海津市グリーン・ツーリズム検討報告書

2008年12月

海津市まちづくり委員会

グリーン・ツーリズム検討分科会

はじめに

グリーン・ツーリズムとは、緑豊かな農山漁村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ、滞在型の余暇活動の事で、ヨーロッパ諸国で普及した旅のスタイルです。

最近我が国でも“新しい旅のカタチ”として関心を集めており、その内容も様々で、山や森、川、海などの自然の中で遊んだり、農林漁業、伝統工芸や伝統芸能など地域の産業や文化活動を体験したり、祭りやイベントに参加したりと、多様化してきています。

グリーン・ツーリズムの魅力は、様々な「体験」と「ふれあい」で、単なる観光旅行と異なり、手に入れる感動もより深く、大きなものになります。

私たち、グリーン・ツーリズム検討分科会は平成 19 年 7 月に市長より委嘱を受け、14 名（市民 9 名、市職員 3 名、アドバイザー2 名）で発足しました。

本分科会は、海津市の基本理念「協働が生みだす　魅力あふれるまち　海津」の本旨を理解し、勉強会や意見交換、グループ討議など、これまで 8 回開催し、「市民が主役」であること、豊かな自然環境や生産性の高い農業など「地域性を生かす」ことを念頭に、積極的に意見を交換しながらグリーン・ツーリズムについて調査・検討してまいりました。

私たちのまち海津市が、魅力ある、愛されるまちとして発展していくことを強く願い、この報告書を提出いたします。

海津市まちづくり委員会
グリーン・ツーリズム検討分科会
分科会長　橋 本 輝 男

もくじ

1. 提案 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2～P3
2. これからの課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P4
3. 市に対する要望事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P4～P5
4. 検討分科会の経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P5～P7
5. 検討分科会委員名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8

別添　資料編

１．提案

検討分科会での協議を踏まえ、海津市におけるグリーン・ツーリズムは次のとおりとします。

ねらい

（1） **商工農との連携による交流人口の拡大**
→ 観光施設、自然環境、祭事・イベントなど、海津市の地域資源と農業の融合により、交流人口の拡大を図ります。

（2） **地域ブランドの確立による産業振興**
→ 生産性の高い農業地域の特性を活かし、海津ブランドのPRを進めることで農業振興を図ります。

（3） **食農教育の推進**
→ 「食」と「農」について体験し学ぶことで、食べものを通し、自然界の営みや農業・身体・心を知り、命のつながり・人とのかかわりを学びます。

実施事項

海津市ならではの食材を活かした郷土料理の提供や、こだわりの特産品開発をすることで、この地域の魅力を高め、「住む人」「訪れる人」がともに、時間・空間・文化などを楽しみながら日帰り型の体験農園といったメニューの提供を行います。

実施主体

海津市グリーン・ツーリズム協議会（仮称）を設立し、事業の計画から実施に至るまで全面的に行います。

詳細内容

プ ラ ン 名 『 地 産 地 消 の 店 』

概要

- 郷土料理を満喫できるメニューを作り、提供します。
- 市内の飲食店と業務提携し、地元素材（野菜等）を使用した「ヘルシー料理」「デザート」を提供します。

実施方法

- 料理およびデザートについては、一般公募により料理コンテストを開催し、優秀作品を採用します。
- 海津明誠高校では学習の一環として地産地消をテーマに研究活動を進めていることから、同校と連携し、メニュー等の充実に努めます。
- 海津市グリーン・ツーリズム協議会は、提案事項に賛同していただける協力者（生産者、飲食店または個人）の獲得に努めます。
- サービス提供者は、主に公募により募集し、海津市グリーン・ツーリズム協議会の趣旨を十分理解したうえで積極的に協力していただきます。
- 市は、対外的なPRを行い話題性を高め、市内外の参加者および集客を目指します。

今後の課題

- 地元野菜を使った「料理」を提供するためには、特定の仕入先としての『仲介者』の存在が必要と思われます。生産者、サービス提供者が円滑にそれぞれの役割を担えるよう仲介組織の構築を検討していく必要があります。現存ではJAが仲介組織として最も有力視できますので、JAとの連携を詰めていく方法が最も合理的ではないかとも考えられます。
- 飲食店との業務提携内容を検討する必要があります。また提携店舗の確保、拡大に努めていかなければなりません。
- 地産地消の店マップやガイドマップを作成・配布し、市内を巡回しやすい環境を整える必要があります。
- 店同士または店と観光資源などのスタンプラリーや、割引クーポンの発行など、集客に努める方法を多数検討する必要があります。

プラン名『かいづ大収穫祭』

概要

- ブランド振興のため、「産地の歴史」や他産地との違いを紹介しながら、農産物を提供しPRを行います。
- 農作物の収穫体験イベントを行い、海津市ブランドのPRを行います。

実施方法

- 農家の収穫日に合わせ、収穫体験を実施します。
- 参加農家の獲得のため、JAの専門部会に協力を仰ぎ、多様な品目の体験ができるようにします。
- 複数の畑やハウスを自由に移動して収穫体験できる収穫ラリーを実施します。
- 農業者（生産者）には、海津ブランドの知名度UPのため積極的に協力していただき、収穫体験用のスペース（農産物）を確保していただきます。
- 市は、イベントの計画や宣伝広告を行います。またJAへの協力依頼を行います。

今後の課題

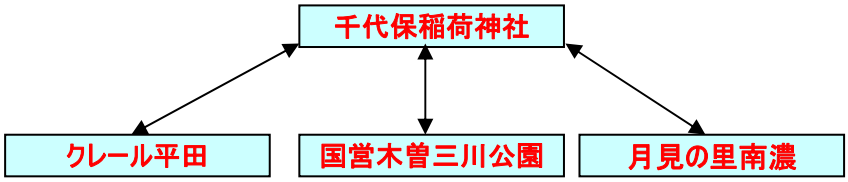
- 参加農家の確保ができなければイベントを開催できません。よって参加農家の確保と拡大が重要課題となります。JAの各部会などを中心に参加農家の理解を求めていくことが大切です。
- 単なる収穫祭では、大量集客を見込めません。旅行会社のツアーや市などのイベントや祭事とあわせて開催していくことも検討していく必要があります。地域との幅広い連携が課題となってきます。
- 観光農園との連携により収穫祭の魅力を高めます。
- お客さんに喜んでいただけるように、収穫物をその場で簡単に料理したり、レシピをつけるなど工夫が必要と思われます。

▼観光アンケートから作成した
千代保稲荷参拝者移動マップ

2．これからの課題

点と点をつなぐ

観光アンケートを実施し、海津市を訪れる人達の大まかな動きが確認できました。主な動きとしては下記のとおりです。



アンケートは休日の昼間に千代保稲荷にて実施したもので、時系的、また海津市全体の観光施設での調査ではないにしても、この結果を踏まえ、参拝者の移動ルート上または施設内を中心に、プラン「地産地消の店」の提携飲食店を獲得する必要があります。

また、市内においてすでに運営されている観光農園（イチゴ、ブルーベリー、みかん）と連携した観光コースや体験コースのメニューづくりを行っていくとともに、広域的な連携も必要で他の市町との相互協力なども検討していく必要があります。

四季を意識した取り組み

グリーン・ツーリズムは四季を通じての展開が理想です。今後は、海津市の四季折々の資源を盛り込んだルート設定を考案する必要があります。

例えば、春は桜、夏は川（ボート）、秋は月見（行基寺）、冬は野鳥観察、など自然環境の資源は多々あります。これ以外の資源も含め、四季を意識したメニューを検討していく必要があります。

人材の育成

市民が主体となった取り組みにおいては、実践者が必要です。また、組織として運営した場合、リーダーの存在も必須になります。海津市のグリーン・ツーリズムが活発的に、また市民主導での運営になるには、たくさんの実践者が必要なため、人材の育成確保に努めていく必要があります。

3．市に対する要望事項

グリーン・ツーリズム事業の実現のため、下記のことについて要望いたします。

（1） 海津市グリーン・ツーリズム協議会（仮称）の設立

グリーン・ツーリズムを企画および提供するため、核となる組織が必要です。農業者、飲食店、JA、観光協会、市の担当課など、関係分野に呼びかけ、協議会を設立していただきたい。また、同協議会の運営が軌道に乗るまで全面的に支援していただきたい。

（2） 人材育成講座の実施

協議会の設立はもちろんのこと、グリーン・ツーリズムを通じたまちづくりを展開するために、人材が多ければ多いほど活発な活動を進めることができます。グリーン・ツーリズム（まちづくり）事業に参画できる人材を育成するため各種講座やイベントなどを積極的に行っていただきたい。

（3） **活動資金の支援**

組織やネットワークの構築が進んだら、その運営（会合の開催にかかる費用など）の資金について援助していただきたい。

（4） **PR活動**

市全体の産業振興につながることから、全面的に広報、広告をお願いしたい。

4．検討分科会の経緯

【第1回分科会】平成 19 年 7 月 30 日

- 杉山教授「GTについて」講話
- 東海農政局「東海3県の取組」の紹介、意見交換

＜主な意見・キーワード＞

- 観光名所、地域資源を組み合わせて考える。
- いまあるものを評価して利用する。
- 千代保稲荷神社をショーウインドーに。
- 観光農業
- スローフード、食の安全性への関心
- 海津市のオンリーワン
- 農業の魅力を伝える

【第2回分科会】平成 19 年 10 月 11 日

- 杉山教授「高山のGTについて」講話
- 岐阜県農業振興課「県内のGTについて」事例紹介、意見交換

＜主な意見・キーワード＞

- 高山、郡上とは違うグリーン・ツーリズム
- 農業体験は生産者にとって負担が大きく、一般の農家では難しい
- グリーン・ツーリズムは、販売型→参加型→滞在型
- 観光資源をベースに、春夏秋冬の位置付け
- 市のPR
- 指導できる人材の確保、育成

海津市を訪れる人がどのように巡回しているかを調べるためアンケート調査を実施し、分科会で報告しました。

＜観光アンケートを実施しました＞ 資料編 P1～P12 参照

海津市を訪れる人の動きを知るために千代保稲荷神社にてアンケートを実施しました。（平成 19 年 11 月 10 日（土））

【結果の概要】

- 県外からの参拝者が8割弱。ほとんどが愛知県（全体の6割強）
- 国営木曽三川公園、クレール平田にも立寄る人が多い。
- 農産物を目当てとする参拝客が2割程度（目的別で2位回答。1位は参拝。）

【第3回分科会】平成 19 年 12 月 12 日

- ワークショップの実施
  「海津市の農業と観光について」

資料編 P14～P15 参照

抽出された事柄から海津市の農業についての課題や特徴を見つけました。

＜主な意見＞

- 農地が広大で、環境もよく農業も盛んであるが、特産品（特に有名な資源）がない。
- 集客性のある施設がある（国営木曽三川公園、千代保稲荷神社、道の駅）
- 後継者不足の問題

＜意見から導かれる課題など＞

- 広大な農地を活用したグリーン・ツーリズムの展開ができるのでは？
- 後継者不足の不安を解消できる方法は？
- 特産品＝海津ブランドのPR
- 観光資源との組み立て方

【第4回分科会】平成 20 年 3 月 14 日

- DVD鑑賞
  「グリーン・ツーリズム紹介DVD鑑賞」
- グループ討議
  「海津市の農業についての課題と解決案」

＜主な意見・キーワード＞

- 海津市において観光協会を立ち上げた。商業、農業、観光が関連して進めていくことが大切ではないか。
- 地産地消の推進
- 農産物の加工品を作ってはどうか。
- 体験農業はあるが、点在しているので、ある程度集約する必要があるのではないか。また集約して体験農業をした後に、温泉、お千代保稲荷というようにルート設定をしたほうがよいのではないか。
- 道の駅の直売所は盛況で、販売スペースの確保ができないことから新規の参加が難しい。出品したい人が商品を出せないということから、例えば軽トラックの荷台に商品を載せて、荷台を販売スペースにしてしまう。そうすれば駐車場スペースだけですむ。

【第5回検討事項】平成 20 年 5 月 23 日

- グループ討議
  「海津市のGT（グリーン・ツーリズム）資源」
  「市内を回遊できるルート」

＜主な意見・キーワード＞

・四季	・歴史、文化の見直し	・加工品
・ヘルシーフード	・ダイエット	・スタンプラリー
・グルメツアー	・簡単な食材加工	
・見るだけでなく、体験できる、食べる		

【第6回検討事項】平成 20 年 9 月 4 日

- グループ討議

「詳細プランの検討」

＜会議概要＞

先進地事例を参考に、海津市でも実現できそうなグリーン･ツーリズムプランを拾い出し、グループ討議を行いました。

【第7回検討事項】平成 20 年 10 月 21 日

- 市内視察研修

「市内のグリーン・ツーリズムを体験する

- 報告書の内容について検討

「海津市におけるグリーン･ツーリズムについて」

＜視察概要＞

- 南濃グリーンセンターにて「みかん狩り農園」の視察を行いました。農園の運営方法や入込客、抱えている悩みを伺いました。
- 月見の里南濃にて加工商品を直売している女性団体に話を伺いました。

＜会議概要＞

- 2グループに分かれて議論を行い、今までの分科会を振り返りながら「海津市におけるグリーン・ツーリズムの提案」として、3案作成しました。

【第8回検討事項】平成 20 年 12 月 2 日

- 報告書の最終検討

５．グリーン・ツーリズム検討分科会委員名簿

○ 委員

公募市民	伊藤啓二郎
農業委員会代表	橋本輝男
農事改良組合連合会代表	西脇幸雄
営農協議会代表	芳賀麒一郎
海津市商工会	鷲野勝憲
農業フォーラム21代表	山内徳男
農業セミナー代表	近藤修治
木曽三川ブルーベリーの里	伊藤辰博
海津市4Hクラブ	近藤栄希
海津市農林振興課主幹	中島　智
海津市商工観光課係長	大倉光好
海津市生涯学習課係長	森　悦子

○アドバイザー

東海学院大学学長	杉山道雄
岐阜県農業振興課　課長補佐	川瀬　昭

○事務局

企画政策課課長	木村元康
企画政策課係長	後藤政樹
企画政策課主任	毛利卓司